



ブラジル中銀による為替介入の実施強化とレアル相場

- 地政学リスクの高まりや世界的な金融市場の動揺を受け、7月下旬以降、レアル相場の下落基調が続いてきた。
- 8月11日にブラジル中銀が為替介入の実施強化を行ったことを受けて、足元のレアル相場には安定化の兆し。
- ブラジルへの資本流入が安定し始めた2014年4月以降は、ブラジル中銀による為替介入は中立化の傾向にあった。
- レアル相場の下落に対して中銀が為替介入の実施強化に動いたことは、今後のレアル相場の安定に寄与すると期待。

世界的な金融市場の動揺からレアル安が進行

ウクライナ・中東情勢の悪化や、世界的な金融市場の不安定化により、ブラジルのレアル相場は7月下旬以降、下落傾向が続いてきました。8月上旬には、レアルの対円相場は1レアル=44円台前半、対米ドルでは1米ドル=2.3レアル近辺までレアル安が進行しました(図1)。

ブラジル中銀は為替介入の実施を強化

レアル相場への下落圧力の高まりを受けて、8月11日にブラジル中銀が為替介入の実施強化を行ったことで、レアル相場に安定化の兆しがみられつつあります。

ブラジル中銀の現行の為替介入プログラム(2014年7月~12月末)では、毎営業日2億米ドル(約200億円*)ずつのスワップ入札(先物市場での米ドル売り介入)が行われています。加えて、ブラジル中銀は過去の通貨スワップの償還に合わせ、最近では毎営業日4億米ドル(約400億円*)ずつのロールオーバー入札を行ってきました。

今回、ブラジル中銀は8月11日より通貨スワップのロールオーバー入札を1日当たり5億米ドル(約500億円*)へ1億米ドル(約100億円*)の増額を実施しました。

※現行の為替介入プログラムに関しては、2014年6月25日付マーケット・レター「ブラジル中銀は2014年末まで為替介入プログラムを継続」を参照

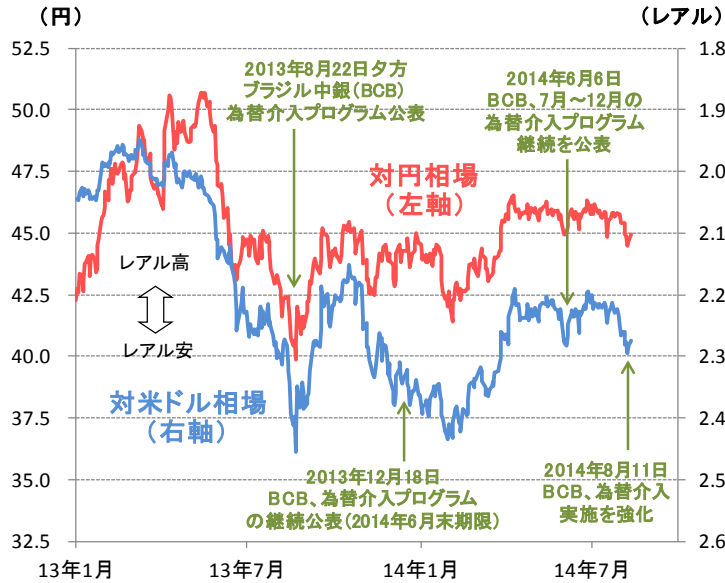
介入強化はレアル相場の安定に繋がると期待

過去の為替介入の実施状況(図2)を見ると、ブラジル中銀はレアル相場が不安定化した2013年6月~12月にかけて積極的な米ドル売り介入を実施しました。しかし、ブラジルへの資本流入が安定化し始めた2014年4月以降は、為替介入オペレーションは中立化の傾向にありました。

今回、レアル相場の下落に対して、ブラジル中銀が為替介入の実施強化に動いたことは、為替市場におけるブラジル中銀の為替政策への信託を通じて、今後のレアル相場の安定に繋がると期待されます。

(*)レター中の為替換算レート:1米ドル=100円

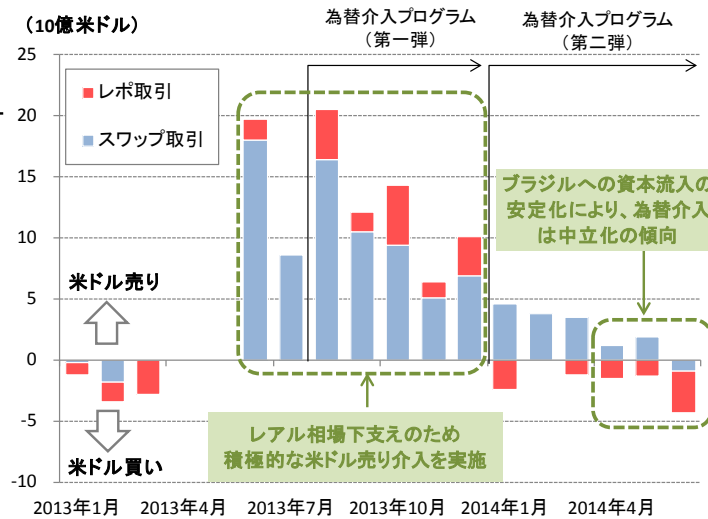
図1:レアル相場とブラジル中銀の為替政策



(出所)ブルームバーグ

(期間)2013年1月1日~2014年8月11日

図2:ブラジル中銀による為替介入の実施状況



(出所)ブラジル中銀 (期間)2013年1月~2014年6月

(注)取引額は「新規介入額-償還額」のネット・ベース。2014年1月以降の米ドル買い取引(マイナスの取引金額)は、過去のレポ/スワップ取引の償還によるもの。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。